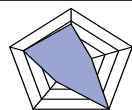


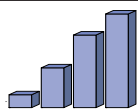


センターだより

愛知県勤労者安全衛生研究センター
〒456-0002
名古屋熱田区金山町1丁目14-18
ワークライフプラザれあろ3F
TEL(052) 684-0003
FAX(052) 684-0303
連合愛知ホームページからも閲覧できます
<http://www.rengo-aichi.or.jp>



データでみる安全衛生



2019年愛知の死亡災害発生状況

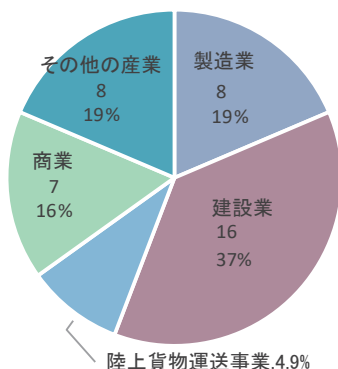
(2020年2月3日現在速報値)

愛知県内の死亡災害は長期的には減少し、速報値ではありますが、過去最少であった2016年と同数の43人となっています。

※グラフ内の数字は件数

建設業と商業で大幅に増加

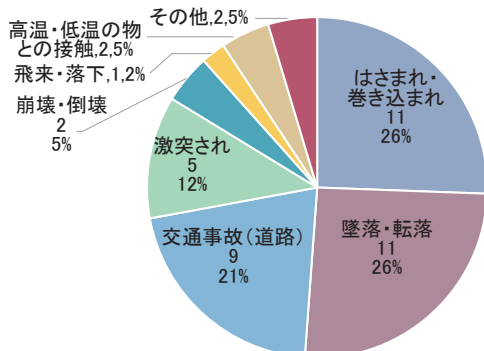
業種別にみると、建設業と製造業で全体の56%を占めています。2018年に比べると、製造業は半数以下に減少しており、活動の成果がみられた一方で、建設業は約1.5倍、商業では1.75倍と大幅に増加しています。



はさまれ・巻き込まれと墜落・転落で半数を占める

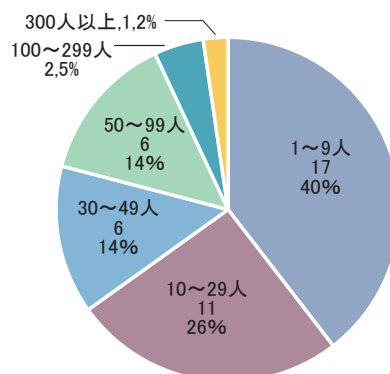
事故の型別でみると、はさまれ・巻き込まれと墜落・転落で52%を占め、次いで多い交通事故（道路）を含めると、全体の73%を占めています。

製造業では、はさまれ・巻き込まれが最も多く、昨年より増加、建設業では墜落・転落が最も多く、昨年より大幅に増加しています。陸上貨物運送業では交通事故による死亡災害はありませんでしたが、商業は昨年と比較して交通事故が増加しています。



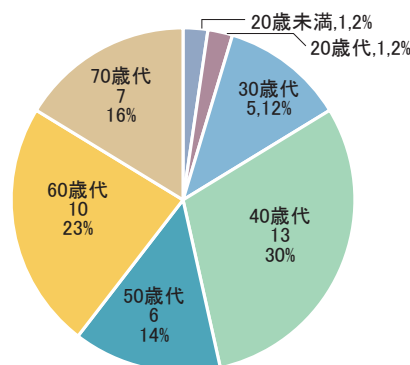
規模100人未満の事業場で93%を占める

規模別にみると、規模が小さいほど死亡災害の発生が多く、特に安全・衛生管理者等の選任義務のない50人未満の事業場で多く発生しています。



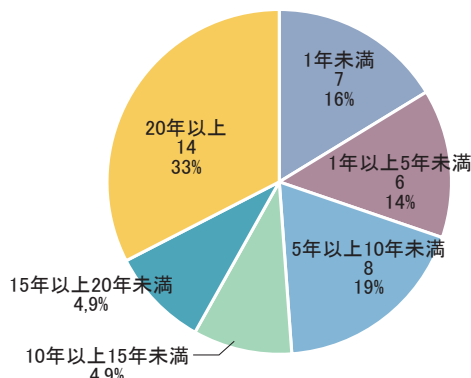
40歳代が最多の30%を占める

年齢別にみると、40歳代で30%、次いで60歳代で23%となっており、40歳以上の死亡災害が全体の83%を占めています。建設業では60歳代が最も多く、次いで40歳代となっています。



経験年数10年以上で51%を占める

経験年数別にみると、20年以上の死亡災害が最も多く、10年以上のベテラン労働者で51%を占めています。



○ リスクアセスメントを知ろう②

○ 安全パトロール、KY活動、ヒヤリハット報告、改善提案などの活動と何が違うの？

○ ※愛知労働局は、労災防止活動に有効な手法として“リスクアセスメント”の導入を推進しています。

※解説は裏面



2020年1月度 愛知県の死亡災害発生状況 <2月3日現在速報値>

2人(1人) 対前年同期 3人(0人) ※()内は交通事故による死亡者の内数

業種・規模	被災者	事故の型	災害状況
清掃・と畜業 10～29人	作業員 70代 4年目	はさまれ・巻き込まれ	廃棄物保管用の擁壁を鉄板で溶接補強するため、解体用つかみ機で鉄板を押さえながら床面との間に体を入れたところ、機械のアタッチメントが下に滑り、被災者の頭部がはさまれ死亡した。
建設業 1～9人	作業員 40代 25年目	交通事故(道路)	被災者と交通誘導員の2人で下水管清掃作業に従事し、午前中に作業を終え、被災者がマンホールから地上に出ようとしたところ、頭部を一般車両に轢かれ、マンホール内に墜落して死亡した。

安全衛生センター理事会で年間活動計画を確認

1月31日、連合愛知安全衛生センター「第1回理事会」を開催し、次のとおり年間活動計画を確認しました。

	安全衛生センター	行政・関係団体等
12月		年末年始無災害運動 (前年12月1日～1月15日)
1月	第1回理事会(31日)	
3月	アンケート実施(～4月末)	自殺対策強化月間
4月	・第2回理事会(14日) ・愛知県中央メーデー(18日)	
5月	第1回安全衛生担当者研修会 (28日)	・世界禁煙デー(31日) ・禁煙週間(31日～6月6日)
6月	・2020労災防止キャンペーン (～7月) ・第3回理事会(24日)	全国安全週間準備月間
7月		・全国安全週間(1～7日) ・熱中症予防強化月間 ・愛知産業安全衛生大会
8月		食品衛生月間
9月	・第4回理事会 ・第2回安全衛生担当者研修会 (30日)	・全国労働衛生週間準備月間 ・自殺予防週間(10～16日) ・健康づくり指導者セミナー
10月		・全国労働衛生週間(1～7日) ・全国産業安全衛生大会(7～9日 札幌市)
11月	安全衛生センター第32回 総会、特別講演(12日)	・過労死等防止啓発月間
12月		世界エイズデー(1日)

リスクアセスメントを知ろう② 解説 これまでの災害防止活動との違い



多くの事業場で取り組まれている安全パトロール、ヒヤリハット報告、KY活動や改善提案は、災害防止に寄与してきましたが、これらの手法には限界があります。

◆安全パトロールは、見回る人の主観によって内容が偏りやすい。

◆ヒヤリハット報告やKY活動では、「こんなことを報告したら叱られる」といった意識が働きやすく、問題点が隠されることがある。

※人の「気づき」に頼っていて、誰も気づかなければ大きな問題点が見逃されてしまう。

◆改善の結果は、完全でリスクが残っていないという考えがあるため、改善提案は、手軽で目に見える成果が出やすい事案に偏る傾向がある。

※大掛かりで改善が困難な事案は提案されにくい。

これまでの災害防止は、個人の危険感受性を高め、できるだけ多くの危なさを「見つける」ことに注力し、「見つける」順序も、目についた順、気づいた順など、人に任されていた。

しかし、本来の「安全」を確保するためには、主観的に「見つける」姿勢から、客観的に「調べる」姿勢に切り替えていくことが必要です。

リスクアセスメントは、危なさは完全に取り去ることができないものであることを認識したうえで、道筋をたてて危なさを調べ、可能な範囲で危なさの「度合い」を下げ、その「度合い」を見定めて対策していく手法で、これまでの災害防止活動とは異なります。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連情報



新型コロナウイルスに対しては、過剰に心配することなく、季節性インフルエンザと同様に、咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染症対策に努めていただくことが重要です。

なお、武漢市から帰国・入国される方、あるいはこれらの方と接触された方で、咳や発熱の症状がある方は、マスクを着用し、事前に医療機関に連絡したうえで受診していただくようお願いします。

<電話相談窓口> 平日9:00～17:00

※愛知県では当分の間、休日も電話対応しています。

愛知県健康対策課感染症グループ	☎052-954-6272
各保健所	所管の保健所



新型コロナウイルスの最新の情報は、愛知県のホームページでご確認ください。